

かけはし

一小だより

No.12 26・3・18

卒業生に

～ 限られた時の中で～

校長 大村 亨夫

この季節「贈る言葉」が求められます。文集や式辞に向かい、私は卒業生の顔を思い浮かべながら、願いと期待を込めたメッセージを考えます。今年の卒業生には「限られた時を意識し大切に」という話をしました。『 』は式辞の概要です。

『私が大学2年の時でした。ある教室の前を通りかかると「石塚教授最終講義」という張り紙を見つけました。退職なさる生物学の先生による最後の授業でした。私は、ほんのひまつぶしのつもりで、その授業を受ける事にしました。入室自由とありましたので、でもそれは、私の生き方を変えるほどの講義でした。「悠久(永久の事)はしあわせか」と題された先生のお話は、「私達は死というゴール(終わり)に向かって生きている」ということから始まりました。「しかしそれは、不幸ではない。終わりがあからこそ、精いっぱい生きることができる。もし、永遠の命があったら努力をしないだろう。だから、充実感もない。君達には様々な終わりが来る。その時まで何ができるか意識して生きよ。」というものでした。この日で教壇を去る老教授の手にバトンがあったとしたら、まさにこの日この時、教師をめざしていた私達へ、そのバトンが渡された瞬間だったように思います。

その後教師になった私は、担任した子ども達に「限られた時」を意識して生きよと言いつけてきました。例えばそれは、中途半端で終わらせないことであり、全力を出すということでした。「青春」という短い時期の生き方にも通じるものと私は思っていました。

君達卒業生は、4月から3年間の中学校生活を

送ることになります。入学したらまず3年間という区切りを意識すること。中学校は3年で終わります。この間、自分で何ができるか、何をしたいのかを決めて欲しいのです。1年、2年と立ち止まりつつ、最後の1年、つまり3年目になった時、思い切ってスパートする。3年間のゴールに延長やおまけはありません。だからこそ、全力でゴールテープを切った喜びは大きいのだと思います。

これまでの6年間を振り返った時、「限られた時間の中でやり遂げる」ことの意識と行動はどうだったでしょうか。仕上げられなかった作品。計画通りできなかった学習。中途半端に終わった550チャレンジ走。誰でも少しの悔いはあるかも知れません。

小学校時代の後悔は、校舎の片隅にひとまず置くとしても、さあこれからです。何を、いつまでやるかを自分で決める。決めたゴールに対して自分との約束をきっちり果たす。このように限られた時を意識してチャレンジしていけば、必ずや満足できる結果を得る事になると私は信じています。遠くの目標を意識しながら、近くのゴールを見つめるという2つの目を持ってがんばってください。中学校でのみなさんの活躍を期待しています。』

今年の6年生は、コツコツ努力を重ねる子ども達です。私はゴール設定をきちんとすれば、力を発揮し、伸びていく子ども達であると思っていました。そんな気持ちをメッセージに込めて話したつもりです。

さて、今年度も終わります。保護者のみなさま、地域のみなさまには本当にお世話になりました。たくさん励ましの言葉をいただき、ありがとうございました。ひとつの区切りをつけて、またお会いできることを願っています。



咲きはじめた敬翁桜 (木村元技術員 様より)

学校のまど ~子ども達のがんばり~

6年間皆出席 6年 男子 1名

1年間皆出席 53%!

1年男子	6名	2年男子	10名
女子	6名	女子	8名
3年男子	7名	4年男子	4名
女子	9名	女子	7名
5年男子	5名	6年男子	7名
女子	7名	女子	7名

冬の省エネ標語・川柳コンテスト

佳作 3年 女子

第6回 税に関する絵はがきコンクール

長井法人会会長賞

6年 男子

6年 女子



6年生の自主清掃



6年生をおくる会



トリオ・アラモーレ コンサート



卒業式



27名の巣立ち



祝福の中で

今後の予定

3/28 (金) お別れの式 10:00~

4/4 (金) 新6年生のみ入学式準備

9:00~11:30

7日 (月) 普通登校 始業式 新任披露式
入学式

8日 (火) 校外子ども会・下校指導

9日 (水) 2年以上給食開始

11日 (金) 交通教室

14日 (月) 1年生給食開始